

さいたま市長 5月臨時記者会見

平成21年5月27日(水曜日)

午後1時30分開会

○ 進 行 記者クラブの皆さん、定刻になりましたので、ただいまから臨時記者会見を始めさせていただきます。

それでは、幹事社の産経新聞社さん、よろしくお願いいたします。

○ 産経新聞 幹事社の産経新聞と申します。

このたびは、さいたま市長、当選おめでとうございます。

○ 市 長 ありがとうございます。

○ 産経新聞 まず、新市長としてのさいたま市政に対する抱負と、あと何をしていくのかと、その点を強くお願いいたします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。ただいまから臨時記者会見を始めさせていただきます。

それでは、始めに記者会見に臨みまして一言ごあいさつを申し上げます。本日さいたま市長として就任をいたしました清水勇人でございます。本日、初登庁ということでありまして、早速記者会見を開かせていただきましたところ、各社ご参集をいただきましてまことにありがとうございました。

市民の皆様には、今回の選挙に当たりまして多くのご支援、ご信任をいただき、心から厚く御礼を申し上げたいと思います。この場に立ちまして、市長としての重責に身の引き締まる思いであります。

私は、さきの選挙戦を通して、さいたま市の未来に危機感を抱いていると訴えてまいりました。「大都市になって輝くはずだったのに、これでは違う。」、「時代のスピードに追いついていない行政改革」、「市民ニーズが反映されない市政運営」など市民の意見を多く耳にまいりました。

そこで、私は、まず市民一人一人が幸せを実感ができる市政にすること、そしてその一人一人をきずなで結ぶことで、さらに幸せを感じられる市政にすることを目指してまいりたいと考えております。

そのためには、私は次の3つの基本姿勢を大事にしていきたいと考えております。

1つ目は、市民、事業者、行政の3者がみずからの責任を果たし、地域、

市の課題をともに考え、ともに行動していく、「責任と共感・共汗」。

2つ目は、市民の声、現場の声を大切にする「徹底した現場主義」。

3つ目は、地域に偏らない、しがらみのない「公平・公正・開かれた市政」の実現。

これらの3つの基本姿勢で市営運営に取り組み、多くの市民の皆様のご託にこたえてまいる所存であります。そして、私が目指すさいたま市の都市ビジョン、「子供が輝く、絆で結ばれたまち」を具体的に実現をしていくために、次の3つを基本方針として施策を展開してまいりたいと考えております。

1つ目は、1円も無駄にしない徹底した行財政改革、徹底した情報公開を進め、生産性の高い都市経営を行うこと。

2つ目は、総合力と個性を大切にした全員参加の1つのさいたま市づくり、絆で結んだ1つのさいたま市を実現すること。

3つ目は、「さいたま市民しあわせ倍増計画」を策定し、市民の皆様とともに計画を推進すること。

これら3つの基本姿勢及び3つの基本方針を通じて「日本一ひらかれたまち、日本一身近で、早い行政、日本一幸せを実感できるまち」にさいたま市を変えていく所存でございます。

具体的な今後の政策については、既に「さいたま市民しあわせ倍増計画マニフェスト2009」として市民の皆様にご提示をさせていただいたところでございます。今後は、マニフェストの実現に向け、市議会のご理解とご協力を賜りながら全力で市政運営に取り組んでまいりたいと考えております。

最後になりましたが、記者の皆様には今後ともいろいろお世話になりますが、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

- 産経新聞 わかりました。その中で、基本姿勢についてはありがとうございます。その中で、まず何から取り組まれていくということを具体的にお願ひできますか。
- 市長 基本姿勢の中からということですか。
- 産経新聞 いや……
- 市長 政策として。

- 産経新聞 はい。
- 市長 就任前も幾つか申し上げておりますが、1つはみずからの任期を制限する多選自粛条例を制定をするということが1つ。
- それから、2つ目がですね、市長直轄の行政改革推進室あるいはチームをつくってですね、民間の専門家にも参画をいただいて、これらを推進をしていくというのが2つ目。
- 3つ目がさいたま新都心のサッカープラザについて白紙撤回をし、再度検討をしていくということでございます。
- 産経新聞 わかりました。
- 幹事社から以上終わりましたので、どうぞ自由にご質問ください。
- 朝日新聞 朝日新聞と申します。
- 今おっしゃった3つの点なんですけども、多選自粛条例、行財政改革チームと新都心のサッカープラザ、それぞれ時期なんですけど、多選自粛条例は6月議会に出すという方向でよろしいわけですか。
- 市長 はい、そのつもりで考えています。
- 朝日新聞 あと、この行財政改革チームというのは、いつごろをめどに設置を目指されるという。
- 市長 そうですね、できるだけ速やかに実施をしていきたいと考えておりますが、組織の改編等、議会での議決等も必要な部分も出てくるかと思っておりますので、これについてはできるだけ速やかにということで、9月あたりがめどになるかなと思っております。
- 朝日新聞 サッカープラザは白紙撤回ということなんですけども。
- 市長 これも恐らくそういう9月ぐらいの時期になるんじゃないか。
- 朝日新聞 9月。
- 市長 はい。これも、いずれにせよ、できるだけ速やかに実施をしていくということで考えております。
- 読売新聞 読売新聞です。
- 副市長が2人ともきのうをもって退任して、その状態で副市長の人事案件については、改めてになりますけれども、いつの議会にということになりますか。
- 市長 そうですね、私自身ももう少しですね、いろいろ検討していく期間も必

要でありますので、6月ではちょっと時間的に難しいだろうと思っております。9月の議会をめどに考えていきたいと思っております。

- 読売新聞 9月まで副市長不在ということですが、それはどうですか。
- 市長 そうですね、もちろん副市長がいないということで大変な部分も出てくるかと思いますが、職員一丸となつてですね、ご協力をしてもらう中で、それらについてはしっかりと乗り越えていこうと思っております。
- 東京新聞 東京新聞と申しますが、きょうは人事発令と組織改編があったと思うんですけども、4月に変わったばかりの組織、市長公室が格下げになったりとか、一応権限を、市長公室のほうは権限分散ということねらいと、あと局長級人事の異動をこの時期にやられたことの意図を教えてください。
- 市長 基本的には、私自身がきょうから入るということで、基本的には身近なスタッフの分を最小限の範囲で行ったということございまして、それぞれ人事評価等についてはですね、それぞれの意見も求めながら、私の責任で判断をして決めさせていただきました。
- 東京新聞 最小限のスタッフについては身近な部分に。
- 市長 そうですね。
- 東京新聞 あと、組織改編についての意図というのは。
- 市長 これもですね、一部、やはり市長公室のところですね、ちょっと権限が集中し過ぎて、比較的やりにくい部分というか、難しい部分があるということでありましたので、東京事務所を政策局のほうへ異動するような形で変えさせていただいたということございまして。特に全庁的な、横断的な情報収集体制というのが必要になるということもありますので、政策局のほうに持っていかせさせていただくと。
- 朝日新聞 確認ですけど、市長公室も権限が集中しているということで改編したという解釈でよろしいわけですか。
- 市長 そうですね。
- 毎日新聞 1つ戻るんですけど、人事の今回最小限で行ったということですけども、どういうところを重視したとかいう観点を教えてくださいんですけど。
- 市長 そうですね、基本的には今回はとにかく余り人事については、入ったばかりで状況が十分把握できておりませんので、できるだけ最小限というこ

とを念頭に置いて、ただ新しく入ってくる中で、やはりそれぞれ人事評価も聞きながらですね、市長が変わるということもありますので、その辺も多少状況を聞きながら最小限、何というんですか、判断をしたということなんですけど。

○ 毎日新聞 例えば行政能力でどういうところを重視したとか、そういう部分がありますでしょうか。

○ 市長 行政能力というか、身近にですね、今後私自身が直接対応していただくような部署でありますので、それらの意思疎通が基本的にはしやすいということを重視して選任をさせていただいて、私自身は大きな異動ではないと。できるだけ最小限にして、ちょっと状況をきちっと把握をした上で人事異動については今後、本当に身近な部分だけという認識でやらせていただいたということです。

○ 時事通信 時事通信です。

サッカープラザの白紙撤回についてなんですけども、これは一部、市だけではなくて、県や民間業者も入っているし、撤回するには議会の議決を通過しなきゃいけないことにはなるんで、本当に順調に進んでいけるのかというところを疑問視する向きもあるようですが、これ現手続でどのようにやっていきたいとお考えなんでしょう。

○ 市長 そうですね、このサッカープラザについては、さいたま新都心第8 1 A 街区整備事業から撤退をするということではありません。サッカープラザにかわる新たな施設の設置について、関係者と協議をしつつ、市民との協働を図りながら再検討していくというニュアンスがありますので、多分、昨日の上田埼玉県知事等の部分については若干誤解が、私自身のちょっと真意がうまく伝わっていなかったという部分ではないかというふうに認識をしています。

また、事業関係者、市議会の関係者とも十分協議をしながらですね、進めていきたいというふうに思っています。

○ 時事通信 これについても具体的に手をつける時期といいますが、それはいつごろからをめでに考えていらっしゃいますか。

○ 市長 これも既に予算化されておりますので、これについてはですね、早目に手をつけていくことが必要だと思っておりますので、これも速やかにやっ

ていきたいというふうに思っています。

- 埼玉新聞 埼玉新聞と申します。
6月議会が迫っておりますが、6月議会に上程を見込まれている補正予算とか、あと緊急経済対策については何かお考えでしょうか。
- 市長 現状の6月議会については、まだ十分検討して、今検討している最中ですが、大きな補正予算あるいは経済対策については、現状のところですね、すぐ手をまだ、6月に出すという予定は今のところはしておりません。
- 埼玉新聞 前市長が昨年末、ことし初めから緊急経済対策として幾つか策を打っておりますが、それに対する継続的なお考えはあるのでしょうか。
- 市長 基本的には継続をしつつ、継続と、あともう少しきめ細かく対応をしたほうがいい部分についてはですね、再検討もしながらやっていきたいというふうには考えております。
- 日本経済新聞 日本経済新聞です。
その経済政策に関連して、部局横断的な自立生活対策チームを設置するとお考えだというふうにお聞きしたんですが、これをいつやるのか……
- 市長 これもできるだけ速やかにですね、やっていきたいと思っております。比較的予算的な措置だとかですね、そういったもの比較的に伴わないですね、実現できるものだと思っておりますので、これらについては速やかにですね、やれるように進めていきたいというふうに思っています。
- 日本経済新聞 そのほか独自案として民間の人に入ってもらって課題を考えるという話でしたけれども、その民間の人というのは副市長というお考えでよろしいでしょうか。
- 市長 副市長も含めてですね、副市長あるいは役所の中にプロジェクトチームみたいな個別のテーマごとにですね、そういったものをつくって行って、任期付きの任用みたいな形で民間の方々に入っていていただいて、職員と一緒にやっていくような形を想定をしております。まだこれについても、現在具体的には検討しておりますので、具体的にどの問題ということについてはもう少しお時間をいただければと思います。
- 共同通信 共同通信と申します。
清水さんのお話これまで聞いていて、市民に直接声を聞いてですね、市民に直接語りかけるというのが清水さんの大きな方針でね、特徴かなとい

うふうに感じたんですけども、そこでちょっと2点。タウンミーティングと、それから街頭市政報告、市長就任後にも続けて行うという、タウンミーティングを行っていくということなんですが、どのような形をイメージされているのか、ちょっと説明をお願いします。

- 市長 そうですね、さいたま市は10区に分かれておりますので、各区ごとにタウンミーティングについては、マニフェストには40回というふうに書かれておりますが、もう少し回数を多くしてですね、これを逆算して計算していきますと、1年に1回、4年間やるという形になるかと思いますが、もう少し多くしてもいいのかなというふうに考えております。

それから、街頭の市政報告については、これは公務ということよりもですね、政治家としての1つのスタンスとして定期的に街頭で市政報告をさせていただくということ、できれば週1回ぐらいですね、程度を想定をしています。

- 共同通信 タウンミーティングのほうは何回、1年に1回。
- 市長 要するに、4年間で各10区ごとに40回というふうのマニフェストに書かせていただいておりますが、2回ないし3回ぐらいと思っておりますので、ですから4年間で80回から100回前後と、こういうふうに考えていただいてもいいです。

- 共同通信 タウンミーティングという、ちょっと小泉純一郎さんの内閣のときですね、ちょっとやらせがあるんじゃないかといった言葉をちょっと思い出してしまうんですけども、当然そういうことじゃなくということなんでしょうけれども。

- 市長 そうですね、はい。もう少し、ですから決まった人が出てくるというよりはですね、従来の、いわゆる決まったような団体の方から決まったような形出てくるというよりは、もう少し幅広く、公募なんかも含めてですね、募集をして、その方々と意見交換をしていきたいというふうに思っています。

- 朝日新聞 朝日新聞です。
前市長が新型インフルエンザ対策用にタミフルを30万人購入するというので、実際にその手は打ってあるんですけども、それについて清水さんのほうで現状維持なのか、何か見直す考えあるのか、スタンスを教えてください。

いただければと思います。

- 市長 タミフルの問題については、基本的には前市長の方針を踏襲していく考えであります。あとは、状況をですね、この新型インフルエンザの流行の状況等々を見きわめながら判断していくことになると思います。
- 埼玉新聞 1つちょっと先ほどの質問の確認なんですけど、補正予算と6月議会の補正と、あと緊急経済対策についてなんですけども、前市長さんが今回のその6月の議会に提案するような準備もされたかと思うんですけども、その辺について清水さんのほうで新しく手を加えて書きかえるというか、踏襲するようなお考えというのはございませんか。
- 市長 現状としてはですね、少し内容も精査もさせていただきながら、私自身の独自色をどう出すかというようなこともありますので、それらも含めて検討をしていくということで、現状としてはまだどういう形で出させていただくか、出させていただかないのかということの検討まだちょっと、今すぐにはちょっとまだお答えできない状況でございます。
- 朝日新聞 済みません。前市長がですね、2月の当初予算で本格予算を組んだこともあって、余りその21年度で清水さんが自由にですね、重点配分したりというような予算が余り残されていないと聞いているんですけども、そういう中で清水さんで、この初年度にどういうふうにもその色を出していこうというふうにお考えでいらっしゃいますか。
- 市長 そうですね、その辺が一つの課題であると思いますが、1つは来年度に向けてという部分もありますし、あとその現状の中で、どれだけどういうことが今年度から実施ができるかということについてはですね、もう一度私自身のマニフェストを具現化する過程の中で、検討をしていきたいというふうに思っております。現状として、ここができてここができないだろうというところまで、きょう就任したばかりですので、まだお答えができませんけれども、今年度から実施ができるもの、あるいは来年度以降にやっていくべきものということで、ちょっと仕分けをしっかりとしていこうと思っています。
- 東京新聞 ちょっと以前にもお聞きしたことですけども、サッカープラザの話が先ほど出たときに、これまでの議会の中の可決というものがあって、それは少数与党という現状もおありになると思うんですけど、そのあたりサッカー

ープラザを含めて、どういうふうに議会等に臨んでいくかでお答えください。

- 市長 一つは、ちょっと事実関係について一回あれですかね、予算の議決はできているけれども、その協定書の中身の議決はできていないというふうに私自身見たんで、その辺の説明をちょっとじゃ、して。
- 審議監 はい、わかりました。要するに議決の関係につきましては、本市の場合は検討、予算等の、もちろん予算の、予算自体は議決されているんですけども、契約にかかわるものに関する議決とかですね、そういったものはまだされていないんですね。
- 東京新聞 財産交換とか。
- 審議監 そうです。
- 東京新聞 例えば金額幾らだと。
- 審議監 そうですね、今後ということで。県については、それを早くということで、既に議決されているというふうに、ちょっと知事さんのコメントに一部不正確なところですか、があったということが一つございます。ただ、市議会との関係では、もちろんその都度ですね、皆さんご存じのとおり説明をしてきているということでございますので、市長からお答えが、先ほどの考え方が示されましたけれども、市議会含めてですね、よくご説明していくということが必要だろうというふうに考えております。
- 東京新聞 市長ご自身の.....
- 市長 ですから、そういった現状がございますので、その財産交換自体の協定書という形にはまだ議決はされておられませんので、基本的には市議会の方々とも、よく私自身の考え方についてお話をさせていただき、また協議もさせていただきながら、ご理解をいただきたいと、こういうふうに思っております。
- 産経新聞 産経新聞なんですけど、市長は選挙を通じて市民の参加を強く訴えてこられました。そしてまた、今3つの何をやるかと、その何を始めるかの中で、サッカープラザについて市民と考えていきたいというお話をされたんですけど、例えば市民が市政に参画してくるといいうきに、どんな形のやり方で、個々違うかもしれませんが、こういう形でやっていくんだというようなちょっとプランなりが、アイデアなりがあれば教えてほしいんですが。

- 市長 そうですね、いろんな検討をしていく中で、一つは公募をして委員として参画をいただくという方法もあるでしょうし、あるいはアンケート等によって参画をいただくケースもあるでしょうし、これは個々によってやり方は恐らく異なると思うんです。ただ、市民の皆さんの声をできるだけすね、公平、公正に聞くような形をとっていきたいと思っております。
- 産経新聞 ただ、サッカープラザでは何かこれをやるというようなプランはございますか。サッカープラザでは。
- 市長 そうですね、検討委員会の中に市民にも参画をいただくという形がよしいんではないかなというふうに思っているのと、あとこの場所のサッカープラザという部分については、やはり市民の方々は知らない方が結構多いんですね、まだちょっと認知度が低いと。その場所について検討しているということについては、十分、市民の皆さんの認知度が低いというようなことがありますので、そういったことも含めてやっていきたいなというふうに思っております。
- 東京新聞 今の検討委員会というものを市民とかを交えて立ち上げるということ。
- 市長 そうですね。そういう方向性で検討しています。
- 東京新聞 それはいつごろということに。
- 市長 そうですね、これも速やかにということですが、具体的な時期等については、現状ではちょっとまだ申し上げられません。
- 東京新聞 お考えとしてはですね、9月議会にそういうことをやるとして、別のものを出していこうとすると、その前の段階にそういう委員会をつくって、方向性、次に例えば代替施設案をそれまでの、今からいくと大体5、6、7、8、9とかの間にまとめるというようなイメージでよろしいんでしょうか。
- 市長 そうですね……そういう方向性になるとは思うんですけど、ちょっとまだその辺ですね、難しいですかね。ちょっと内部的な詰めもまだ十分しておりませんので、もう少し時間がかかるかもしれません。
- 東京新聞 ただ、検討委員会をつくって、代替施設を市民も交えて協議していくという姿勢だということではよろしい。
- 市長 そういうことです。
- 毎日新聞 毎日新聞です。選挙戦の中でも区役所の話などをよくされて、たらい回

しにされることが多いのではないかと、もっといい対応できないのかというお話をされていたと思うんですが、予算をつけなくてもかなりやっつけられる部分があると思うんですけれども、そういう点はどういう取り組みを。

○ 市長 そうですね、一つはやはり窓口で、窓口業務をふやしていくとかですね、そこできっちり区役所のほうで対応していくという部分は、比較的大きな予算措置を伴わなくてもできるのではないかと考えておりますので、この辺についても、まだきょうちょっと就任したばかりですが、この辺についてもですね、速やかにできるようにですね、今年度から実施ができる部分、あるいはどうしてもある程度の予算措置を伴ってやらなくてはいけない部分と、これもあるかと思っておりますので、段階的にはなるかと思っておりますけれども、それらもできるだけ速やかにですね、市民の皆さんの期待の大きい一つの事業というかですね、改革の一つだと思っておりますので、そういう形で進めていければと思います。

○ 毎日新聞 それは、じゃ行財政改革のプロジェクトチームをつくらずとも、やっつけっていくということでもいいんですか。

○ 市長 そうですね。あわせて、あとその権限移譲の部分についてはですね、やはりもう少しきちっと議論をしていくことも必要だと思っておりますので、権限移譲については検討委員会というかですね、そういったものを設置しながら決めていくということが必要だろうと思っております。ただ、窓口的な対応についてはですね、ある程度今年度からできる部分があるかと思っておりますので、今年度できるものについては、できるだけ今年度からスタートしたいというふうに思っておりますし、そういったいろんな措置、予算措置が伴う、大きな予算措置が伴うことで来年度以降でなくては難しいものについては、段階的にという形になるかと思っております。

○ 朝日新聞 その関係で、この前の会見でも聞いたんですけど、職員の方ですね、意識の改革がポイントになってくると思うんですけど、清水さんの中でその職員の活性化なり、組織の活性化について重点を置くところを教えてください。

○ 市長 そうですね、1つはマニフェストにも書かれていますが、職員の方々の、いわゆる車座集会をですね、行っていきたいと思っております。これ

は、一つは幹部クラスもやってまいりますし、若手の職員の皆さんともや
っていくつもりでいます。

それが1つとですね、あとはやはり先ほど来申し上げております民間の、
民間人をできたら任期つきですね、任用というような形で、そのプロジ
ェクトごとに登用していくと、それで結果を出してもらおうような形で職員
の皆さんと一緒にですね、チームを組んで取り組んでもらうというよう
な形を積極的にやっていきたいというふうに思っております。それも今年度
すぐできるものと、やはり時間を追って段階的にやっていかななくてはいけ
ないものというのがあると思いますので、これらについては、いつからど
ういうふうにするということまでは申し上げられませんが、そういった
形で意識啓発をしたい。あと、一職員一改革運動ではないですけど、業務
の効率化、あるいはより効果を高めるというような視点からですね、そう
いったものについてもですね、職員に呼びかけてですね、実施をしていき
たいと思います。

○テレビ埼玉 テレビ埼玉なんですけど、情報公開にも力を入れていくとおっしゃって
いましたが、情報公開についてはどのような取り組みをされるんでしょう
か。

○市 長 選挙戦でもお伝えしてきましたけれども、1つは目玉としては、予算の
編成過程の公開をしていくということだろうと思っています。これにつ
いては、どの時期にスタートができるかというのは、今後ちょっとまだ内部
で検討していかなくてはいけない課題ではあると思いますが、来年度の予
算編成過程、今年度から始まっていくわけですけども、今年度からですね、
どこの段階からできるかちょっとわかりませんが、できるだけ早い
段階から公開ができるようにですね、調整を図っていきたいというふう
に思っています。

○共同通信 それはどこかの自治体で、例えばお手本というかね、そういうのがある
とかいう……

○市 長 普通の政令市になっていない市町村では、幾つかやっているところござ
いますよね。いわゆる原課から上がってきて最初の段階のものと、あとそ
の査定がかかってくるプロセスを何回か公開していくというようなことを
やっていく市が幾つかあったと記憶しております。そういったものに近い

ものをつくればとは思っていますけれども、1年目でありますので、どこまで、どこからスタートができるかというところありますけれども、いずれにせよ最終案をいきなりぼんと出すということにはしません。どこかの段階で市長査定、あるいはその財政関係の査定が入る段階ぐらいからは、少なくとも公開をしていきたいというふうに思っています。

- 東京新聞 6月議会で、さっきの多選自粛条例って3期12年ですよ。
- 市長 はい。
- 東京新聞 それ以外で、ご自身でこれは出したいと思われているものとかいうのは何か。
- 市長 そうですね。一つはですね、まだちょっとはつきりあれですけども、退職金の減額についてですね。
- 東京新聞 市長のご自身の。
- 市長 そうです。
- 東京新聞 給与とは別に退職金。
- 市長 ええ、退職金を50%。
- 東京新聞 これ条例案になるんですか。
- 市長 条例案に……
- 総務局長 条例案で。
- 東京新聞 条例のほう提出したい。
- 総務局長 はい。
- 東京新聞 これ、どういうお考えで出そうかと。
- 市長 やはりまず身を切るということがね、これからいろいろ市政運営をしていく中で、多くの皆さんに改革を強いるという部分もありますし、あと市民の皆さんが、まさに100年に1度の経済的な危機と言われる中で、大変厳しい状況にある中で、まずみずからある程度身を切っていくという、その姿勢を見せていくことが重要だと思っておりますので、まず第一段階として退職金の問題からスタートしていきたいと。
- 東京新聞 これおわかりになればいいんですけど、もしあれだったら職員の方に聞いて教えていただいてもいいんですけど、50%減額というとお幾らからお幾らになるんでしょうか、1期で。
- 総務局長 約ですけど、ちょっと細かい数字持ってきていないんですが、

3,200万円ぐらいが満額支給になると思いますんで。

- 東京新聞 これ4年間。
- 総務局長 4年間でももちろん、任期満了でですね。ですから、その50ですから、はい。
- 東京新聞 一応額で1,600万円ぐらい.....
- 総務局長 ええ、1,600万円ぐらいになるのかなと。ちょっと細かい数字またあれでしたら、給与課のほうからご連絡しますけども、はい。
- 朝日新聞 今の関係で、市長報酬のほうは.....
- 市 長 報酬についても、時期を見てやりたいと思っています。
- 朝日新聞 時期、具体的な数字とかも言ってください。
- 市 長 自分の頭で思い描いているものはありますが、その辺については、その段階で発表させていただきたいと思っております。
- 朝日新聞 さいたま市の医療関係で清水さん選挙期間中ですね、北九州方式を導入した救急医療関係って、具体的にどういうふうにプロセスを踏んで、いつごろまでみたいな構想があれば。
- 市 長 具体的な進め方についてはまだ詰めておりませんので、申しわけない部分もありますが、1つはやはり医師会の方々のご協力をいただかななくてはいけない部分もありますので、一応できるだけ早い時期に医師会の皆さんとの意見交換等々はさせていただきたいというふうに思っています。その中で段階的にどういう形で進めていくか、内部的な部分も含めてですね、調整をしていきたいというふうに思います。
- 読売新聞 先ほど来サッカープラザの話が出ているということと、あと県議時代にもスポーツ振興関係に行っておられたということで、ちょっと伺っておきたいんですが、さいたま市がサッカーが盛んだということをおっしゃる方多いんですけども、恐らくプラザ廃止などにも、白紙ということにもあらわれているように、何らかの問題点を感じられておられると思うんですけども、そこについてさいたまサッカーに関する問題点。
- 市 長 1つ誤解があってはいけないのはですね、サッカープラザを一切やめるというふうなことではありません。さいたま新都心にサッカープラザをつくることについて白紙撤回という意味でありまして、例えばいろいろ今回の選挙戦でもご意見出ていましたけれども、スタジアムの周辺につくるとかですね、

あるいは例えば大原中学校の跡地につくる、学校の跡地につくるとか、いろんな考え方はできるかと思えますけれども、つくるとすれば観光施策のですね、一環として場所についてはですね、新都心でなくてもいいのではないかと。むしろそういった視点からもう一回その辺は見直しをしたほうがいいのではないかと。いうふうに認識をしていて、あえてさいたま新都心という場所につくる必要はないのではないかと。いうふうな意味合いで白紙撤回ということを申し上げているので、サッカープラザを一切不必要であるという意味ではないつもりなんですけど。

- 読売新聞 そこは存じ上げています。さいたまのサッカーの問題点。
- 市長 サッカーについては、やはり浦和レッズがあり、大宮アルディージャがありますので、それは一つのさいたま市の大きなセールスポイントでもあり、売りでもあると思いますし、私自身もプロのチームがあるということもそうですし、あと大変スポーツが盛んな地域である、まちである、市であるというふうに認識をしておりますので、マニフェストにも書かせていただいておりますが、さいたま市スポーツ振興まちづくり条例等々を制定をしたいというふうに思っておりますし、あとスポーツ多目的広場増設計画というような形でね、スポーツ振興をしていきたいと思っておりますが、サッカーも一つの大きな目玉ですが、サッカー以外のスポーツの部分についてもスポットを当てていきたいと、こういうふうなとらえ方でいいかと思えます。
- 東京新聞 今の確認なんですけど、サッカープラザをほかの場所に移設するということ。
- 市長 ことも考えられるということで、とりあえずですね……
- 東京新聞 計画を中止もあり得る。計画の中止と移設のどちらか、要は白紙撤回するわけだから、移設か計画の廃止のどちらかだと思うんですけども。
- 市長 この事業自体がさいたま新都心の8-1A街区の整備事業としてやるということについては、要するに白紙……
- 東京新聞 にするということは、そうすると今の話だと、そうすると廃止するか移設かと思うんですけど、選択肢としては両方おありになるのか……
- 市長 サッカーが非常に全国的にもさいたま市の場合著名であるという部分もあるので、8-1A街区以外の場所でも検討はしていきたいとは思っております。ですから、別の場所でというような可能性もあるということですけども、たださいたま新都心の8-1A街区の整備事業としては白紙撤回をした

いと、こういうことをご理解いただきたい。

- 時事通信 新都心の当該場所なんですけれども、サッカープラザじゃなくてもっとさいたま市とか県とか、ひいては東日本の顔となるようなものかわりにつくりたいとずっと言っていたらっしゃいましたね。
- 市 長 はい。
- 時事通信 その代替案として例えば子どもミュージアム(子ども博物館構想)なんかを入れていらっしゃいますけれども、それを絶対やりたいというわけでもないとの間の会見でもおっしゃってまして、いわゆる顔となる施設というのがちょっとあいまいな、抽象的な表現なので、具体的には何をどうすればさいたま市とか県とかを代表する顔になるのかというのが余り見えてこないですね。そこをもうちょっと詳しく聞かせていただけますか。
- 市 長 それは、ですから検討委員会で今後やっていきたいと思います。
- 時事通信 まだ市長としても具体的なお考えは持っていない。
- 市 長 個人的にはそういったものも、子どもミュージアム的な部分(子ども博物館構想)も可能性としてはあるのではないかと、子育てとか子どもの教育とかね、そういったものを全面にね、掲げたまちづくりをしていきたいという思いもあるので、そういった部分も対象の一つではないかというふうには思っておりますが、そういった部分も含めてですね、白紙でもう一回再検討しましょうという意味で選挙戦ではお訴えをしてきたつもりであります。
- 読売新聞 確認しておきたかったんですが、白紙撤回して、意見聞いてみて、ああ、やっぱり必要だと言って、やっぱり8-1A街区でやっちゃうという可能性もあり得るんですか。そういう結論に戻るという可能性。
- 市 長 100%ないわけではないかもしれません。
- 朝日新聞 サッカープラザとずれるんですけど、市長選ですね、市役所の位置について合併協定書で新都心が望ましいということで掲げられた方もいらっしゃったんですけども、清水市長で新庁舎の整備問題については場所や時期含めてどうお考えなのか。
- 市 長 基本的には、マニフェストにも、ちょっとあいまいな表現でありましたけれども、地域的な対立を超えた視点から市民の声を聞きながらですね、検討していくということを考えておりまして、現状としてもさいたま市庁舎整備検

討委員会というのが昨年設置をされておりますので、その辺の動向も踏まえながらですね、市庁舎の位置というのはやはりそれを決めるためにはプロセスが非常に重要だと私自身は認識をしています。というのは、どこにあれば一番いいかというやっぱり正解がなかなか見つけにくい問題でもあるので、その辺のプロセスをきっちり積み上げながらやっていくということが重要だと思っています。それが1点です。

- 朝日新聞 時期については。
- 市長 時期については、緊急の課題ではないと考えています。ですので、かといってずっと先延ばしにするつもりもありません。現在もこの検討委員会が2年ぐらいのスパンで検討されているということですので、それらも踏まえながら本格的な委員会等をですね、次の段階では立ち上げていくようなことも視野には入れています。
- 朝日新聞 その文言でね、新都心周辺が望ましいとのたしか意見を踏まえみたいな感じですが、それはとり方によってはね、新都心が望ましいという意見を尊重するのと、そういう意見もあるよという解釈が2つ分かれると思うんですけど、清水さんとしてはどういう解釈でいらっしゃいます。
- 市長 そうですね、そういう意味では今さいたま新都心地区というのはいろんな行政機関がね、集中しているということもあったり、あるいは位置的に真ん中辺にあるというような認識も持たれているというようなこともあったりというような状況があるからだとは思いますが、ただいづれせよ、これまで長く浦和のこの場所でね、置かれてきたというような部分もありますので、そういったことも配慮しながらやっていかなきゃいけない。
あともう一つは、やっぱり費用の問題ですね。コストの問題は、やはり今のこの財政厳しい状況の中でこの問題について推進をしていくということがいいことなのかどうかというようなこともありますので、また関連して例えばさいたま新都心だとすると、じゃどこだということになったときに、今国の出先機関のですね、統廃合の話なんかも出ておりますので、いろんな状況の変化も踏まえながら、やはりできるだけお金をかけないでですね、やっていくことも必要だと思っていますので、いづれにせよ、ちょっと少し時間をかけながら、今のすぐに対応しなくてはいけない問題とは認識をしていない。ただ、検討していくことの大切さというのは感じておりますので、現在

やっている検討委員会の推移を見ながら、さらにもう一步踏み出した形のことについてもですね、やっていきたいというふうに思っています。

- 東京新聞 地下鉄7号線についてですが、改めて24年度事業着手というお考えでいいのかということの再確認と、中間駅周辺開発など需要採算確保策への考え方、あと県等の地元負担の部分のことについてもどういう形で協議を進めているのかという3点よろしいでしょうか。

- 市長 そうですね、基本的にはその24年度までに事業着手をすることを目標に県とも連携をしながらですね、取り組んでいきたいというふうに思っております。

また、中間駅の、あるいはその周辺のまちづくりの問題についてもですね、やはり経済性を十分に考慮しながら、かつ色づけの周辺のまちづくりをどうするかというような問題も含めてですね、検討していきたいというふうに思っておりますが、具体的に多少幾つかのアイデアはありますけど、まだちょっとそのアイデアを公にするまでの熟慮も精度もありませんので、そういったことを積極的に考えながらですね、今の経済性というものが十分ある程度担保されなければ難しいと思いますので、その辺を十分に検討しながら進めていきたいというふうに思っています。

負担については、今後県とですね、また市長がかわりましたので、そういった意味でもう一回ですね、市としても前向きに取り組んでいく中で検討をさらに進めていきたいというふうに思います。

- 産経新聞 他にございませんか。

- 日本経済新聞 マニフェストの点検方法なんですけれども、きょうさいたま市からマニフェストの工程表をいただきまして、総合評価の96%(点)ですが、ただあれは内部評価による結果であって、例えば地下鉄7号線に関しても遅延ではなくて成果ありというふうに表明されていたり、一般の感覚すると、ちょっとやっぱり甘いなという感じがしないでもないんですよ。清水さんが掲げていらしたマニフェストを評価に関して、例えば民間から入ってもらって、透明性があって公平な視点でやっていきたいとか、そういったお考えってありますか。

- 市長 そうですね、マニフェストについてはマニフェスト検証大会を年に1回やりたいと思っています。マニフェストの今後工程表をね、しっかりとつくっ

て、もう少しマニフェストも具現化した形で表現をさせていただいてその工程表をつくと。そして、それを毎年検証大会をやって皆さんにご報告をし、市民の皆さんも含めて、民間の皆さんも、外部的な皆さんも含めて評価をしていただくということをやっていきたいと思います。

- 日本経済新聞 外部の委員も入れるということですね。
- 市長 そうですね。
- 読売新聞 検証大会は公開ですか。
- 市長 公開します。
- 共同通信 先ほど一部話に出ていました、ちょっと繰り返しになるんですが、選挙戦で民主党のですね、支援を受けて、終盤戦特に党色が強く出たもんですから、そういった点で議会对策ちょっとやりづらいかなというようなお考えというか、気持ちはないですか。
- 市長 基本的にはですね、地方自治でありますので、私自身も基本は無所属という形の中でね、民主党無所属の会の市議団の皆さん、みどりの風の皆さんと政策協定という形で結ばせていただく中で応援をしていただきました。ですから、基本はいわゆる与党、野党的なものではなくてですね、もう少し幅広い形で私の提出した議案あるいは政策というものについて議論していただいて賛否を諮っていただくということでもいいのではないかと考えていますけど。確かに当初はね、6月議会ぐらいについてはやはり選挙が終わった直後ということでね、いろんな状況もあるかもしれませんが、その辺は最終的にはですね、市民のためにこの市政を運営しているということでもありますので、その中で十分ご理解をいただける部分もたくさんあるのではないかと考えております。
- 共同通信 それについては、自信を持っていらっしゃると。
- 市長 そうですね。
- 産経新聞 じゃ、質問は大体終了したようなので、これで終わらせていただきます。よろしいでしょうか。
どうもありがとうございました。
- 市長 ありがとうございました。
- 産経新聞 長時間ありがとうございました。
- 事務局 以上をもちまして臨時記者会見を終了させていただきます。どうもありが

ありがとうございました。

午後 2 時 1 5 分閉会